



中津市文化財 保存活用地域計画

【概要版】

令和6年12月 令和7年3月改訂
中津市教育委員会



中津市文化財保存活用地域計画とは

過疎化・少子高齢化等の社会状況や、自然環境の変化により、文化財を取り巻く状況は厳しさを増し、文化財保護には、これまで以上に行政と地域の方々との連携が必要となっています。

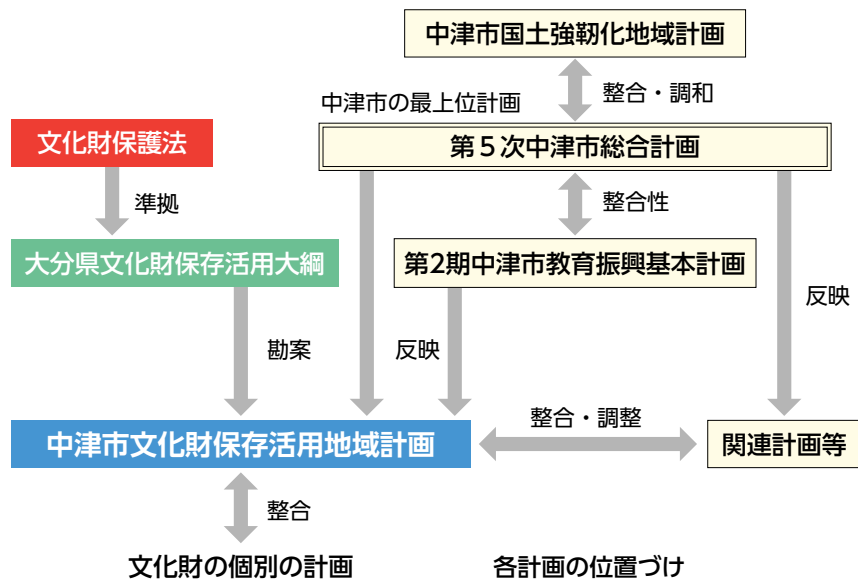
本計画は、中津市の文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画で、中津市の文化財保護行政の方向性を示し、具体的な取組み内容を記載したマスタープラン兼アクションプランです。本計画に基づいた取組みを進めることで、文化財を総合的・一体的に保存・活用することを目指しています。地域社会総がかりで文化財を守り、活かし、伝える体系の構築を図り、文化財を活かした魅力的なまちづくりを推進します。

計画の位置づけ

本計画は、中津市の文化財に関する計画の最上位に位置付けられ、中津市のまちづくりの最上位計画であり指針である「中津市総合計画」並びに、中津市教育委員会の「中津市教育振興基本計画」を踏まえ、関連計画との調整や連携、整合を図ります。

計画期間

令和7～15年度



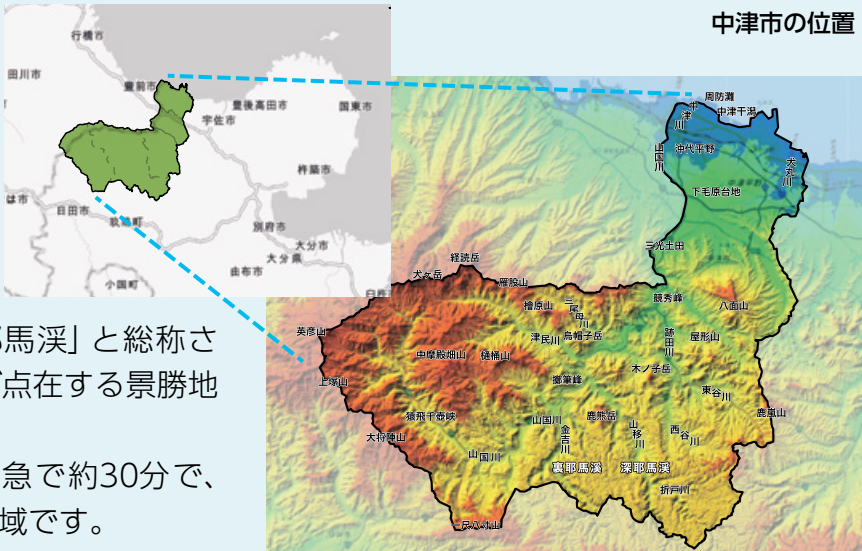
中津市の概要

大分県の北西部に位置し、総面積491.44km²、人口81,526人（R6.8.15現在）。

市域の中核をなす北端部は、市域を縦断する山国川河口に平野が開け、中津城跡を中心に城下町が形成されています。

市域の77％は森林が占めており、「耶馬溪」と総称される山間部は、名勝耶馬溪の指定地が点在する景勝地です。

西は福岡県に接し、JR小倉駅から特急で約30分で、鉄道利用は比較的アクセスしやすい地域です。



歴史文化の特徴

市域を縦断する山国川と、奇岩奇勝が織りなす独特の自然景観は、中津独自の歴史文化を生みしました。

1. 山間部：奇岩奇勝の地形に根ざした歴史文化

奇岩と溪流が織りなす神秘的な地形は、命をはぐくみ、祈りの地となり、芸術が生まれ、やがて広大な「名勝耶馬溪」が誕生しました。

2. 沖積平野と洪積台地：肥沃な大地に生きる歴史文化

渡来人の技術で開発された肥沃な大地には、宇佐八幡宮と密接に結びつきながら計画された「古代のまち」が生きています。

歴史文化資源の概要

本計画では、指定・未指定にかかわらず、文化財保護法に定義されているもの（文化財の6類型・埋蔵文化財・文化財の保存技術）のほか、中津市の歴史文化の正しい理解のために欠くことのできないものの全てを対象とします。

主な指定文化財

【建造物】

神尾家住宅（国重文）
薦神社神門（国重文）
耶馬溪橋（国重文）など

【美術工芸品】

銅造観音菩薩立像（国重文）
羅漢寺石仏（国重文）など

【民俗文化財】

「傀儡子」（国無民）
「古要神社の傀儡子の舞と神相撲」（国無民）など

【遺跡】

「長者屋敷官衙遺跡」（国史跡）
「福沢諭吉旧居」（国史跡）など

【名勝地】

「耶馬溪」（国名勝）など

【動物・植物・地質鉱物】

「ベッコウトンボ」（市天然）
「犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地」（国天然）
「耶馬溪猿飛の甕穴群」（国天然）など

類型		国指定・選定	都道府県指定	市町村指定	国登録	国選択	県選択	合計
有形文化財	建造物	3	6	42	28	—	—	79
	美術工芸品							
	絵画	0	1	2	0	—	—	3
	彫刻	2	6	16	0	—	—	24
	工芸品	0	4	7	0	—	—	11
	書跡・典籍	0	1	3	0	—	—	4
	古文書	0	0	9	0	—	—	9
無形文化財	考古資料	0	1	2	0	—	—	3
	歴史資料	0	1	12	0	—	—	13
	無形文化財	0	0	0	—	0	—	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	1	5	0	—	—	7
	無形の民俗文化財	2	5	9	—	2	1	19
記念物	遺跡	2	13	33	0	—	—	48
	名勝地	1	0	2	1	—	—	4
	動物・植物・地質鉱物	3	8	6	0	—	—	17
文化的景観		0	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	0
合計		14	47	148	29	2	1	241

中津市の指定文化財 令和6年8月1日現在

埋蔵文化財

遺跡は338件が周知されています。集落跡が76か所と最も多く、散布地・城館跡は74か所、墳墓は57か所、生産遺跡は24か所を数えます。

日本遺産

中津市と、隣の玖珠町をつなぐストーリー「やばけい遊覧ー大地に描いた山水絵巻の道をゆくー」が日本遺産に認定されています。

未指定文化財

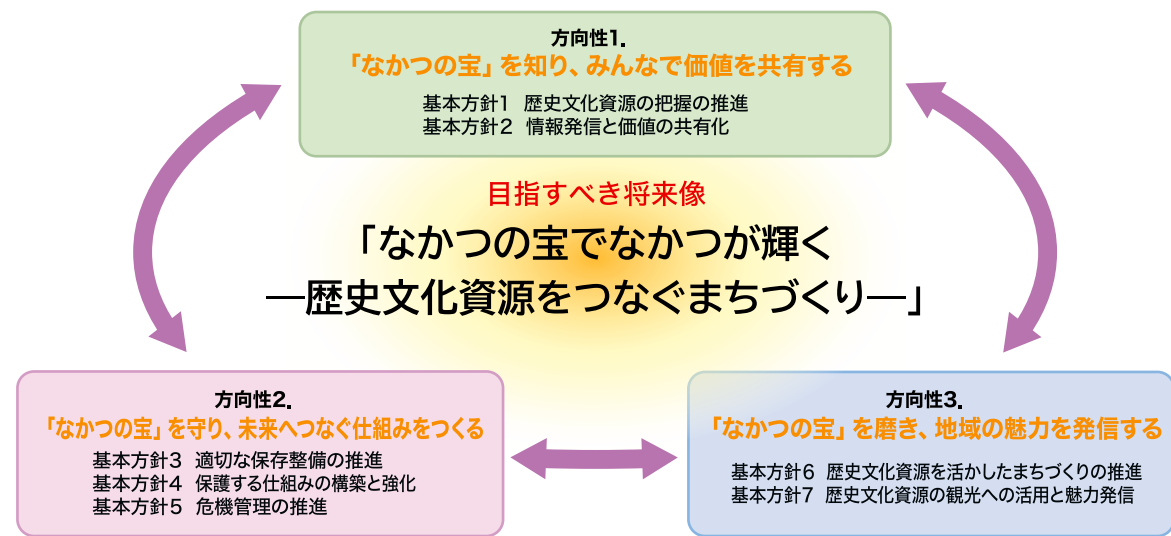
本計画の作成にあたり、未指定文化財1,747件を把握しました。指定文化財では該当ゼロとなっている無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群も含まれています。また、歴史的地名・伝承・歌碑等、文化財6類型に含まれないものも確認しましたが、全体を通して十分に把握できているとはいえません。今後も未指定文化財の把握に努め、指定・未指定含めて適宜詳細調査を行っていきます。

3. 沿岸部：進取の気質が生んだ歴史文化

黒田官兵衛が山国川河口にお城を築いてから福澤諭吉が先導した近代化まで、中津の文化は「進取の気質」によって育まれました。

目指すべき将来像

中津市独自の歴史文化は、中津市の個性であり、魅力であり、強みです。
本計画では、中津市を輝かせてくれる歴史文化資源を「なかつの宝」と呼びます。



目指すべき将来像と方向性の体系

「なかつの宝」の価値を知り、市内外の人たちでその価値を共有します。そして「なかつの宝」を保護し、未来へ伝える取組みを推進します。
さらに「なかつの宝」を磨き魅力的なまちづくりを推進することで、「中津で暮らしたい。中津を応援したい。」人を増やし、「なかつの宝」を未来へ伝える好循環を生み出します。

課題と解決のための方向性

- 各歴史文化資源の把握調査・詳細調査を行う必要がある。
- 調査成果をもとに、適切な評価をし、指定等の保護の措置を行う必要がある。
- 調査研究成果の公開を十分に行う必要がある。
- 収蔵資料、市内文化財等のデータを公開できていない。
- 現場説明会や特別公開など、歴史文化資源を深く知る機会を作る必要がある。
- 学校現場や歴史文化の愛好会・希少動植物保護等の市民団体等との連携を強化する必要がある。
- 説明板・パンフレット等の不足や、内容修正が必要なものがある。他

方向性1
「なかつの宝」を知り、
みんなで価値を共有する

- 保存活用計画の作成及び見直しが必要な指定文化財がある。
- 屋外の歴史文化資源の劣化や、屋内の古文書等が雨漏りや水害等で濡れる等の懸念がある。
- 指定文化財を保護するとともに、価値を伝え、周辺一帯の活用を考えた整備を行う必要がある。
- 収蔵環境の改善が必要な収蔵施設がある。
- 自然環境の変化による動植物への影響が懸念される。
- 過疎化・高齢化による歴史文化資源の担い手が不足している。
- 指定文化財の維持管理が所有者の負担になっている。
- 文化財の防災・防犯の対応の整理が必要である。
- 文化財保管施設の防災・防犯設備の改善が必要である。 他

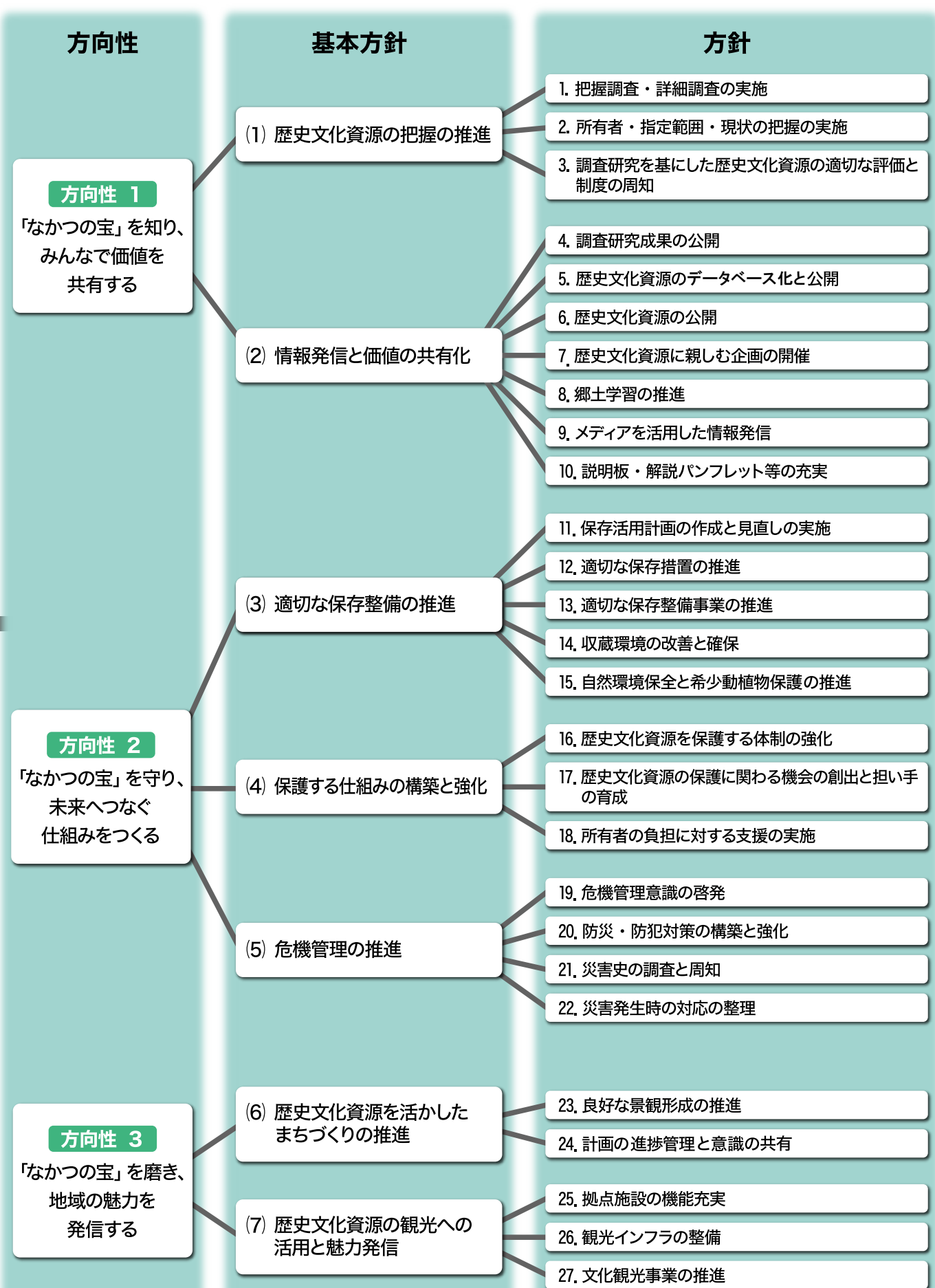
方向性2
「なかつの宝」を守り、
未来へつなぐ仕組みをつくる

- 開発が進み歴史的な景観の維持が難しい。
- 樹木の繁茂により、耶馬溪の奇岩奇勝の景観が損なわれている。
- 文化財の魅力を発信する拠点施設の機能を強化する必要がある。
- 地域のブランド力を高め収益性を向上させる、持続可能な体制づくりが必要である。
- 歴史文化を活かした観光商品の開発が必要である。
- 活動したい市民を支援する取組みが必要である。 他

方向性3
「なかつの宝」を磨き、
地域の魅力を発信する

歴史文化資源の保存・活用に関する課題・方針・措置

目指すべき将来像
なかつの宝でなかつが輝く—歴史文化資源をつなぐまちづくり—



方向性・基本方針・方針の体系

関連文化財群

市内の歴史文化の特徴に基づき、関連文化財群を11のテーマで捉えました。本篇には、それぞれの概要、構成要素、核となる関連施設等、保存・活用に関する課題・方針・措置をあげています。これらをもとに、さらなる歴史文化資源の保存・活用の取組みへと発展していくことを目指します。

B 横穴墓の隆盛と国づくりを支えた渡来人

横穴墓が主流となった古墳時代後期、窯業や築堤、寺院建立等の公の事業に、渡来系集団の活躍が見えます。

【保存・活用の方針】

- ・分布調査、測量調査を実施
- ・防災視点の現状把握と情報共有
- ・周知遺跡の地図データの公開と周知活用 他



D 耶馬溪の奇岩奇勝に見出された神仏

耶馬溪の奇怪な景観に人々は神仏を見、岩窟は修行者達の行場となり、多くの仏像・神像・石造物が納められました。

【保存・活用の方針】

- ・仏像、石造物等の定期的な所在確認と保存措置検討
- ・仏像等の所有者と協議し、収蔵庫設備の整備を支援する等、管理体制を構築する 他



F 在地領主野仲氏と中津の中世

県内最多の中世城館・寺社・古文書・石塔・祭り等、中世を生き抜いた在地武士達が残した文化は今も息づいています。

【保存・活用の方針】

- ・紀年銘を有する石造物個体や石造群の指定を推進
- ・長岩城跡の詳細調査実施
- ・き損した石垣等の保存修理を行う 他



H 学問の奨励と先哲たちの足跡

奥平氏の学問奨励から近代社会を牽引した福澤諭吉まで、中津市には時代に先駆けた知者を生む土壌がありました。

【保存・活用の方針】

- ・先哲史料の調査と公開
- ・福沢諭吉旧居の保存、修復、活用
- ・「不滅の福澤プロジェクト」で積み上げてきた官民共同の取組みを継続させる 他



J 観光地「耶馬溪」をつくる ―橋・道・鉄道が導くやばけい遊覧―

耶馬溪に残る石橋、旧道、石碑は、奇岩奇勝を観光地として発展させた人々の努力の足跡を伝えています。

【保存・活用の方針】

- ・名勝耶馬溪の構成文化財の整理と再評価を行う
- ・耶馬溪の個性を活かした商品開発と魅力発信を官民共同で推進する 他



A 自然と共生した縄文人

洞穴や自然堤防上の利用、多くの縄文人骨や出土品は、自然と共生した縄文人の暮らしや精神文化を物語っています。

【保存・活用の方針】

- ・粉洞穴を調査 貝塚の整備
- ・縄文遺跡の活用と整備
- ・「縄文体験学習会」をグレードアップ 他



C 市の原点 ―律令が残るまち―

官道・条里・郡衙・寺院と、「古代下毛郡」のまちづくりが、今も中津の町に生きています。

【保存・活用の方針】

- ・長者屋敷官衙遺跡は必要に応じて追加指定を行い、Ⅱ期整備を実施する
- ・古代景観の保全と、魅力を活かしたまちづくり
- ・窯跡群の把握調査と保存措置 他



E 傘鉾がめぐる古代以来の灌漑遺産と中世・近世のムラの景観

ため池、条里制、井路の築造と、古代・中世以来1300年生き続ける灌漑遺産が中津の田を潤しています。

【保存・活用の方針】

- ・灌漑遺産の詳細調査と文化財としての保全を目指す
- ・薦神社神門の保存活用計画を作成し、神社全体の保存活用方針を反映させる 他



G 中津城と城下町、つなぐ街道と宿場

中津城周辺には城下町の面影が残り、往時の街道も私達の生活の一部として受け継がれています。

【保存・活用の方針】

- ・中津城跡の保存活用計画を作成する
- ・古文書の保存を市民に呼びかけ、情報収集・調査整理を行う
- ・旧街道を調査し、指定、修復を行う 他



I 福澤諭吉が目指した近代社会 ―近代産業とその遺産―

中津市の行政・教育・産業・交通は、福澤諭吉や福澤門下生らの先導によって近代化の道程を進みました。

【保存・活用の方針】

- ・近代化産業遺産を十分に把握し、指定や保存の措置を講じる
- ・近代化産業遺産の価値の周知を行うと共に、観光コンテンツとして活用を推進する 他



K 神の鎮まる山に育まれた祭りと人々の営み

山や川の恩恵を受けて暮らす人々の営みの中で、聖なる山や川への独特な信仰と民俗芸能が生まれました。

【保存・活用の方針】

- ・民俗芸能、祭礼行事、風習、記録史料の調査をし、記録保存を進める
- ・新たな担い手を確保するため、地域と連携した価値の周知と魅力の発信につとめる 他



歴史文化資源保存活用重点エリア

地形・景観と深くかかわる歴史文化資源がある地域を重点エリアとし、地域の特徴に応じた整備活用を重点的に推進します。

中津城下町と海のエリア【主な取組み】

- 「中津城跡保存活用計画」の作成と中津城の調査・整備の再開
- 福澤諭吉顕彰事業の推進
- 博物館等展示施設の充実と活用推進
- 中津干潟の保全と希少動植物の保護の推進 他



古代のまちづくりと信仰のエリア【主な取組み】

- 長者屋敷官衙遺跡の調査・保存・整備事業の推進
- 古代遺跡の整備と古代景観の保全の推進
- 沖代地区条里跡の詳細調査・価値の周知・条里水田の活用の推進
- 関連遺跡を有する自治体・博物館等との連携の推進 他



やばけい遊覧エリア【主な取組み】

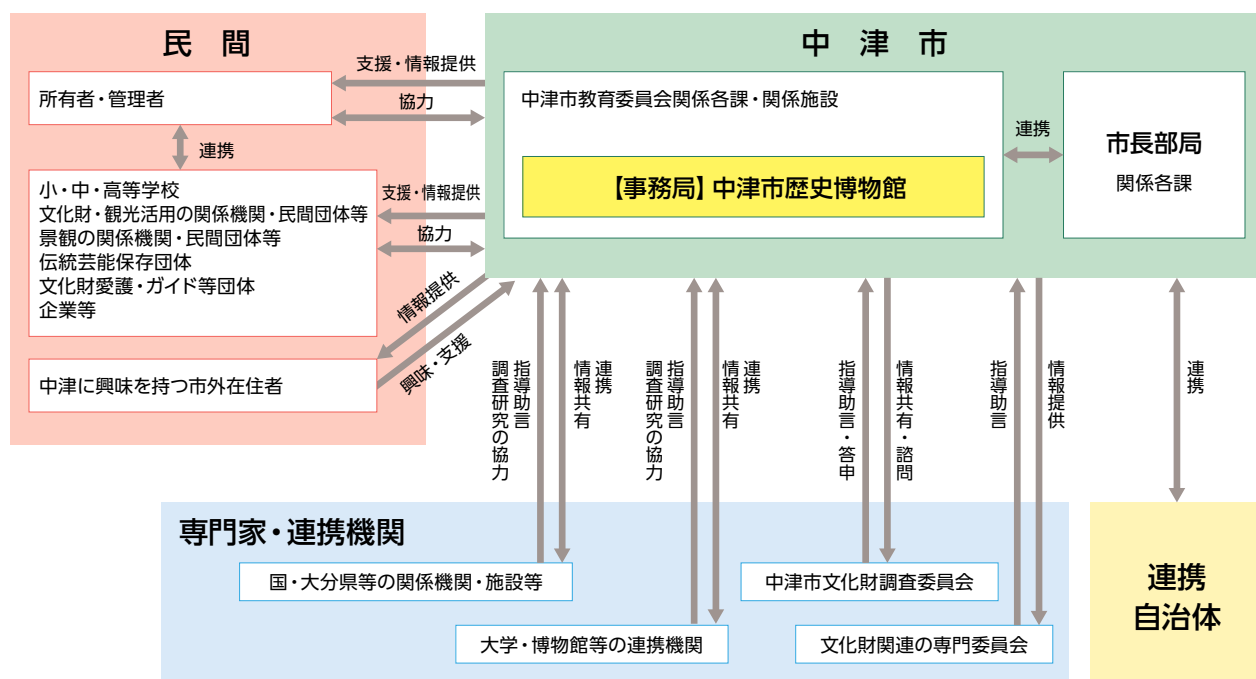
- 耶馬溪の景観保全の推進
- 名勝耶馬溪保存管理計画の見直しと再評価の実施
- 石橋の保護と魅力発信の強化
- 耶馬溪の魅力を発信する商品の開発 他



歴史文化資源の保存・活用の体制

本計画に掲げる取組みを実施し、将来像を実現するため、文化財専門職員の確保と資質の向上を目指し、専門分野の職務を遂行できる体制づくりに努めます。また、歴史文化資源の所有者・管理者・愛護団体・民間業者・専門機関等と行政が協力するとともに、連携する他自治体や中津市ゆかりの市外在住者・中津市のファンの支援も力に、歴史文化資源の保存・活用に取り組みます。

取組み主体	役 割
市民	中津市民、歴史文化資源の所有者（地権者）・管理者、中津の歴史文化に興味を持つ市外在住者です。歴史文化資源の保存・活用への協力や参加者となり、所有者（地権者）・管理者は事業主体者にもなります。中津市からは支援や情報提供を行います。
行政	中津市及び中津市教育委員会の関係部署であり、中津市歴史博物館が本計画推進の事務局となります。大分県・国との協働も含みます。「福澤諭吉旧居・福澤記念館」や市内各展示施設も関係施設として含まれます。本計画に基づいて、文化財の保存・活用を推進します。
団体	文化財や景観、観光に関係する団体や組織、企業、そして文化財の保存・学習・愛護・ガイド等の活動を行う団体です。市内の小・中・高等学校は、郷土学習や文化財愛護活用等を行います。伝統芸能を保存する団体は、自らが民俗文化財を継承する担い手として活動します。文化財を調査研究し、活用する団体も含まれます。行政や専門家から指導・助言・情報提供を受け、保存・活用事業への協力を行うと共に事業主体者にもなります。中津市からは活動の支援・情報提供を行い、活動の連携も行います。
専門家 連携機関	学識経験者、大学、市外県外の博物館、研究機関、ヘリテージマネージャー等のことで、専門知識を持って指導助言を行い、調査研究の協力を行います。また、中津市と情報を共有し、事業の推進を行う連携自治体も含まれます。



推進体制の相關図

中津市文化財保存活用地域計画の本篇は中津市のホームページに掲載しています。

中津市文化財保存活用地域計画（概要版）

発行日：令和7（2025）年3月

編集・発行：中津市教育委員会

〒871-0057 大分県中津市1290番地（三ノ丁）中津市歴史博物館

Tel：0979-23-8615